

平成 30 年 6 月 26 日現在

機関番号：37303

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K01543

研究課題名(和文) 近世武芸の教育的特性についての研究 - 近世初期兵法書を資料として -

研究課題名(英文) The study on educational property of Japanese budo -Based on a Review of the Heiho Series in the early modern period-

研究代表者

田井 健太郎 (TAI, KENTARO)

長崎国際大学・人間社会学部・講師

研究者番号：00454075

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本の身体運動文化の変革点の一つである近世初期に焦点をあて、近世武芸がどのような過程で現代武道にも通底する教育的性質を帯びていったのかについて明らかにすることを目的とした。

近世初期の理想的な武士像として、戦闘者の武士観と士の武士観が並列して存在していた。戦闘者の特性と為政者としての特性が提示されるとともに、武士階級において両者の理論的両立が求められていた。そして、武士教育の内容としては、これらを二面的特性として持つ武士の再生産過程として、それぞれの性質を教育する内容が示されていた。こうした理念は現実の兵法教授の中で受肉されたと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study to clarify the process through which Bu-Gei, from the early modern period, became enmeshed in the educational qualities that are fundamentally connected to budo in the present day.

In Heihosho, the idealized images of the fighting warrior and the statesman coexisted in the early modern period. With regard to the characteristics of the fighter and the statesman, their theoretical compatibility was also required in the Bushi class. In this context, warrior training involved teaching these characteristics as the process of remaking warriors who possessed both sets of qualities. This duality was likely embodied in actual lessons focusing on Bu-Gei, or fighting techniques.

研究分野：近世武芸論 体育哲学

キーワード：武道論 近世武芸 近世兵法書 武道概念

1. 研究開始当初の背景

平成25年4月より、平成20年に告示された新学習指導要領に則った教育が全面実施された。保健体育分野に関する大きな変革点の一つとして、中学校における武道の必修化が盛り込まれたことがあげられる（文部科学省、2008）。今次の学習指導要領改訂は、日本の伝統の再認識を掲げる新教育基本法を踏まえてなされたが、「伝統的な行動の仕方」を守り、「武道の特性や成り立ち」や「伝統的な考え方」の理解を目標とする武道の必修化は、新教育基本法の趣旨に沿ったものと言える。しかし、そもそも武道と強く関連づけられている「伝統的な行動の仕方」を学び「伝統的な考え方」を身につけるとは如何なることなのだろうか。

「行動の仕方」を学び「考え方」を身につけるという手法としては、明治から戦前にかけて富国強兵政策のもと、尚武の精神を養う手段として国をあげて武道奨励がなされたことなどがあげられる。さらに遡れば、行動の仕方と精神性の関係は近代以前にも「武士道」という理念で把握されていた。これまでの研究では、行動の仕方（「修練」、「実践」）と精神性（「道義的在り方」）の原型が指摘されているが、その具体像は明確になっていない。

かつて武士階級の世代的再生産のために為された武術・武芸の鍛錬が、殺傷目的の修練に留まらず、実践を通して武士の在り方を実現する機能を有していたことは、今日の武道が、身体面を超えた教育目的を期待される経緯と相通的である。しかも近世の武士階級の精神的特性が「伝統」文化として現代にも伝えられていることからすれば、武士の行動の仕方と精神性との関係を検討するこ

と、とりわけ近世初期の武士教育の内容を明らかにすることは、現代において武道に期待される教育的意義を追求するために不可欠の作業と考えられる。

2. 研究の目的

現代武道の持つ特異性については、武道の近代化の研究で大きな解明がなされてきた（井上俊（2004））。たとえば、「術から道へ」というテーマで論ぜられる内容は、近世の「武術」が近代化を果たし、「武道」と呼称される過程を歴史的アプローチによって考察し成果をあげている。近代期の武道成立についての研究では、近世までの殺伐とした武芸を、技術の習得と人格的・道徳的価値の涵養とを結びつけた武道へと変容させた、つまり近代化した点にあることが指摘されている。これらの論説に共通するのは、合理化を図って発展を果たした武道には、母胎として前近代的な武術・武芸の存在があったとしていることである。しかしながら、既に徳川幕府の成立以来、武技の現実的な必要度は著しく低下していた。結果的に長期に渡る泰平期が続いたとはいえ、中世までの戦乱とは一線を画す泰平の時期が到来したことを近世期の同時代人も感じていたであろう。

こうしたことからすると、近代武道の前身と考えられる近世の武芸を、人格的、道徳的な価値とは無縁の殺伐としたものとして考えることを再度検討する必要があるのではある。今日の我々が、概念レベルで武道を、あるいは武道の性質を明確に把握しえない理由の一つは、近代以降の武道に繋がる近世の「武」を明確にしえていないことに求めることができる。そこで、本研究は、武道の概念の解明への道を一步前進させるために、武道の中でも主要な要素が成り立ったと考えられる近世の武芸概念の主要性

質の成立過程に焦点をあて、武道の身体運動文化としての所以を探究しようとしたものである。

これまで日本文化としての「武道」の源流に関しては、近世における武芸の研究が、流派や研究の視点を変えて為されているが、「武道」の文化的淵源が明らかになったとは言えない。近代期の武道成立が、殺伐とした近世武芸を技術の習得と人格的・道徳的価値の涵養とを結びつけた武道へと変容させた点にあることも指摘されているが、こうした論説に共通するのは、武道が中近世の武術を母胎として、近代期に劇的な発展を果たしたとの前提的認識である。しかし、近年の研究のいくつかは、中世までの戦乱とは一線を画す近世期に、近代武道研究が示すような殺傷を主眼とする武芸が存在したとは言い切れないことを提示してきた。これは我が国の代表的身体運動文化である武道にとって重要な問題であり、新しい知見を踏まえて、これまでの認識に再検討を加える必要が生じてきたのである。先行研究としては、近世兵法書を資料とした中世武術の特性について発表されている（田井（2006））。この研究では、中世武術の性質について戦闘技法構造の側面と武士倫理性の二面に着目し、その発生過程について明らかになっている。また、近世初期の武士倫理が、戦闘者の武士身分観と士的武士身分観の混在状態から、武を司る者による徳治という倫理観への発展がみられることが示唆されている（田井（2008））。そこでさらに武道概念の明確化をすすめるために、本研究では、近世の思想書、兵法書を用いて、士大夫的士分観の形成過程、武芸の教化システムとしての発展過程、武芸の芸道的稽古形成過程について検討し、武芸の教育的性質につい

て明らかにすることを課題とした。これらの課題の中には、日本人の伝統的な考え方に通ずる倫理観、身体文化を介しての教育、日本固有の教授法といった現在の学校教育が取り組む内容が含まれている。またそればかりか、これらの課題の解明は、日本文化論あるいは身体文化論としての身体性と精神性の関連についても視野を広げることができると考えられた。

3. 研究の方法

弓術、剣術、馬術など、武芸として認められる様々な運動文化があるにもかかわらず、本質的徴表によって示される武芸の概念は明確にされていない。個別の身体運動文化の総称として曖昧に武芸を判断してきた結果と言える。こうした現状の原因は、武芸の持つ秘匿性や「不立文字」、「以心伝心」といった禅的な世界観にも求められるが、問題の解決には、やはりそうした世界観を含めた武芸概念や特質の提示を回避できない。本研究では、研究方法の核として、武芸概念の構成契機として、「体技性」、「芸道性」、「士分性」の三つをあらかじめ措定し考察の視点とした。

これらの構成契機を考察しうる具体的資料として近世初頭に成立した「兵法書」に注目する。兵法書を資料選択した意図は、「武士の基礎的な素養」である兵法を、武士と武芸の間を媒介とする項に据えるという点にある。これまでの武芸研究では、近世武芸に内在する政治、社会、思想、軍事、倫理というそれぞれ個別の側面を総合することに方法論的問題を抱えていた。個別の視点からの像がどれほど詳細に示されてもその全体像を理解することはできない。また、いくつかの視点からの像が全体像の中でどのように配置されるのかということ

についても提示されていなかった。武芸概念の構成契機の提示とそうした構成契機を総合的にとらえる枠組みの確保が本研究の取り組みの特徴といえる。

27年度は、近世初期を代表する三大兵法流派の書物、すなわち甲州流兵法書、北条流兵法書、山鹿流兵法書の資料分析をもとに、士大夫的士分観に焦点を絞り、その形成過程の検討に取り組む予定である。これらの近世兵法書は、成立時期が若干異なるため、変革する武士の理想的な在り方がどのように形成されてきたのかを検討することが可能であると考えられる。社会的安定へと舵を切った変革期の中での職業的戦士である武士の存在理由、殺人術・格闘術である武芸の存在理由は、近現代の「武道文化」の精神性、伝統性に大きな影響を与えていると考えられる。また、中世以降の芸道的稽古法が武芸に受容されていった過程を確認し、近世兵法書で著される稽古、修業について分析を進める。

4. 研究成果

2015年度から2017年度に至る3年間の本研究プロジェクト期間において、編の学術論文（うち編は印刷中）と本の学会発表および資料調査研究活動を行った。

平成27年度は、近世初期を代表する三大兵法流派の書物の資料分析をもとに、士大夫的士分観に焦点を絞り、その形成過程の検討に取り組んだ。資料の結果として、研究成果の発表を行った。

研究活動実績としては、①【平成27年5月】研究協力者と研究成果の発表について調整を行った（東京都）、②【平成27年6月】『体育スポーツ哲学研究』に研究成果を発表した（体育哲学を再考する(3)–新たな議論の可能性の探究一）、③【平成27年6月】『体育

哲学研究』に研究成果を発表した（スポーツ実践の思想(2)–実践思想のパフォーマンス一）、④【平成27年8月】研究協力者と研究発表の概要を確認した（愛知県）、⑤【平成27年9月】1st World Congress Health and Martial Arts in Interdisciplinary Approach (Czestpchowa) において研究発表を行い（‘The study on educational property of Japanese budo — Based on the formation of the Bushi status in the early modern period’）、proceeding を発行した、⑥【平成27年12月】日本体育学会体育哲学専門領域定例研究会に参加し、当該領域の最新知識について研究協力者と意見交換を行った。

平成28年度は、前年度からの課題である士大夫的士分観の形成過程の検討を継続し、さらに芸道的稽古形成過程、武芸の教化システム発展過程の資料分析を開始した。研究活動実績としては次の通りである。

①【平成28年5月】Aktywnosc Fizyczna i Zdrowie w ujeciu interdyscyplinarnym (Czestpchowa) において共同研究発表を行い（‘Selected elements of intercultural communication in the context of the meeting between science and practice in the field of rehabilitation and martial arts. ）、proceeding を発行した、②【平成28年10月】5st IMACSSS International Conference (Rio Maior) において研究発表2題を行い（‘The Formation of the Warrior’s Status — Based on a Review of the Hojyo-Ryu Heiho Series —.’、‘A Study on Theory of Body in Maurice Merleau-Ponty’s Phenomenology. —From the viewpoint of ‘Waza’ in Japanese High School Baseball —’）、proceeding を発行した。

平成 29 年度は、前年度からの課題である芸道の稽古形成過程の検討、武芸の教化システム発展過程の資料分析を継続して行った。また、昨年度までの研究成果をもとに近世武芸成立過程の予備的検討について国際学会において発表した。研究活動実績としては次の通りである。

①【平成 29 年 5 月】研究成果をもとに、成果の報告をおこなった。「武道をゆく ～形・型を通して武道に触れる～」筑波大学付属駒場中学校総合学習講演、

②【平成 29 年 10 月】The 22nd Annual Congress of the European College of Sport Science (Essen) において研究発表を行い（‘The Peculiarity of the Budo as part of the Physical Arts culture : Focusing on the historical evolution of Budo’）、proceeding を発行した。③【平成 29 年 8 月】日本体育・スポーツ哲学会第 39 回大会において、研究発表を行った（「武術・武道研究の根本問題：技の分類（科学的方法）の意義と意味」共同研究）、④【平成 29 年 9 月】2nd International BUDO Conference by the Japanese Academy of BUDO において、研究発表 2 題を行った。

（‘Analysis of electromyographic activity of the lower limb muscles and motion during Fumikomi movement in Budo athletes . 2nd International BUDO Conference by the Japanese Academy of BUDO’ 共同研究、‘Relationship between Sense of Coherence and Flow among Japanese Karate Athletes.’ 共同研究）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 8 件）

1. 田井健太郎 (2015) 暴力容認の風土の解明と風土を変える視点の検討Ⅱ. 体育学研究 60 : R2:1-7 (平成 27 年 7 月)
2. 田井健太郎, 佐々木究, 杉山英人, 高橋徹, 高橋浩二 (2015) 体育哲学を再考す

る (3) -新たな議論の可能性の探究-. 体育・スポーツ哲学研究 37 (1) : 69-78.

(平成 27 年 6 月)

3. 田井健太郎, 佐々木究, 米村耕平, 石岡丈昇, 木庭康樹 (2015) スポーツ実践の思想 (2) -実践思想のパフォーマンス-. 体育哲学研究 45 : 35-46 (平成 27 年 6 月)
4. Kentaro TAI (2015) The study on educational property of Japanese budo - Based on the formation of the Bushi status in the early modern period. Archives of Budo Conference Proceedings 1 : 182-184 (Sep,2015)
5. Kentaro TAI, Tatsuo YAGI, Masaki FUMOTO, Kohki KINIWA, Hiroyuki IMAMURA (2016) The Formation of the Warrior's Status -Based on a Review of the *Hojyo-Ryu Heiho Series*-. Revista de Artes Marciales Asiáticas 11(2):132-133 (Sep, 2016)
6. Shuhei KITGAWA, Kentaro TAI, Kohki KINIWA (2016) A Study on Theory of Body in Maurice Merleau Ponty's Phenomenology - From the viewpoint of 'Waza' in Japanese High School Baseball -. Revista de Artes Marciales Asiáticas 11(2):130-131 (Sep, 2016)
7. 田井健太郎 (2016) 近世兵法書を通して武道の源流へ. 月刊武道 6 月号 27-31 (平成 28 年 5 月)
8. 田井健太郎, 谷木龍男, 麓正樹, 今村裕行 (2017) 学校体育における空手道の可能性 - 『平成 20 年改訂中学校学習指導要領』をもとに -. 空手道研究 14:15-18 (平成 29 年 6 月)

〔学会発表〕（計 11 件）

1. 谷木龍男, 田井健太郎, 麓正樹 (2015) 空手道選手の心理的競技能力と首尾一貫感覚の関係. 第 47 回日本武道学会大会 (平成 27 年 9 月 於: 日本体育大学).
2. 麓正樹, 田井健太郎, 谷木龍男 (2015) 武道競技者の踏み込み動作における下肢筋電図活動パターンの解析. 第 47 回日本武道学会大会 (平成 27 年 9 月 於: 日本体育大学).
3. Kentaro TAI (2015) The study on educational property of Japanese Budo - Based on the formation of the Bushi status in the early modern period. 1st World Congress Health and Martial Arts in Interdisciplinary Approach (Czestpchow, Sep 17-19, 2015)
4. Paulina Przepióra, Kentaro TAI (2016) Selected elements of intercultural communication in the context of the meeting between science

and practice in the field of rehabilitation and martial arts . Quantitative and qualitative nutrients of young athletes. Aktywnosc Fizyczna i Zdrowie w ujeciu interdyscyplinarnym

(Czestpchow,May 20, 2016)

5. Kentaro TAI, Tatsuo YAGI, Masaki FUMOTO, Kohki KINIWA, Hiroyuki IMAMURA (2016) The Formation of the Warrior's Status -Based on a Review of the *Hojyo-Ryu Heiho Series*-. 5st IMACSSS International Conference (Rio Maior,Oct, 2016).
6. Shuhei KITAGAWA, Kentaro TAI, Kohki KINIWA (2016) A Study on Theory of Body in Maurice Merleau-Ponty's Phenomenology . -From the viewpoint of 'Waza' in Japanese High School Baseball -5st IMACSSS International Conference (Rio Maior,Oct, 2016).
7. 田井健太郎 (2017)「武道をゆく ～形・型を通して武道に触れる～」筑波大学付属駒場中学校総合学習講演。(平成 29 年 5 月 於：筑波大学付属駒場中学校)
8. Kentaro TAI (2017) The Peculiarity of the Budo as part of the Physical Arts culture : Focusing on the historical evolution of Budo. The 22nd Annual Congress of the European College of Sport Science. (Essen, Jul 5-9, 2017)
9. 志々田文明, 田井健太郎 (2017) 武術・武道研究の根本問題：技の分類 (科学的方法) の意義と意味. 日本体育・スポーツ哲学会第 39 回大会。(平成 29 年 8 月 於：長崎国際大学)
10. Masaki FUMOTO, Kentaro TAI, Hiroya DAITOKU, Tatsuo YAGI (2017) Analysis of electromyographic activity of the lower limb muscles and motion during Fumikomi movement in Budo athletes . 2nd International BUDO Conference by the Japanese Academy of BUDO (Osaka,Sep 6-8, 2017)
11. Tatsuo YAGI, Masaki FUMOTO, Kentaro TAI (2017) Relationship between Sense of Coherence and Flow among Japanese Karate Athletes. 2nd International BUDO Conference by the Japanese Academy of BUDO (Osaka,Sep 6-8, 2017)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

田井 健太郎 (Kentaro TAI)
長崎国際大学・人間社会学部・講師
研究者番号：00454075

(2)研究分担者

なし

(3)研究協力者

なし